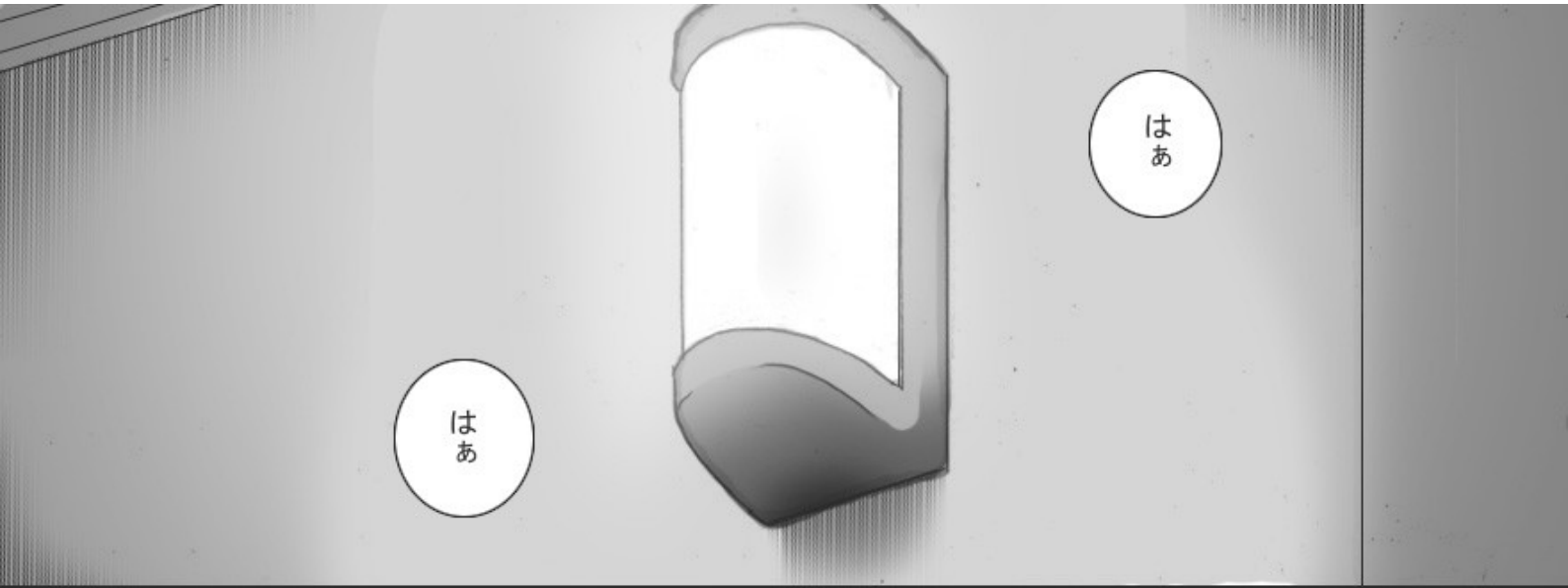




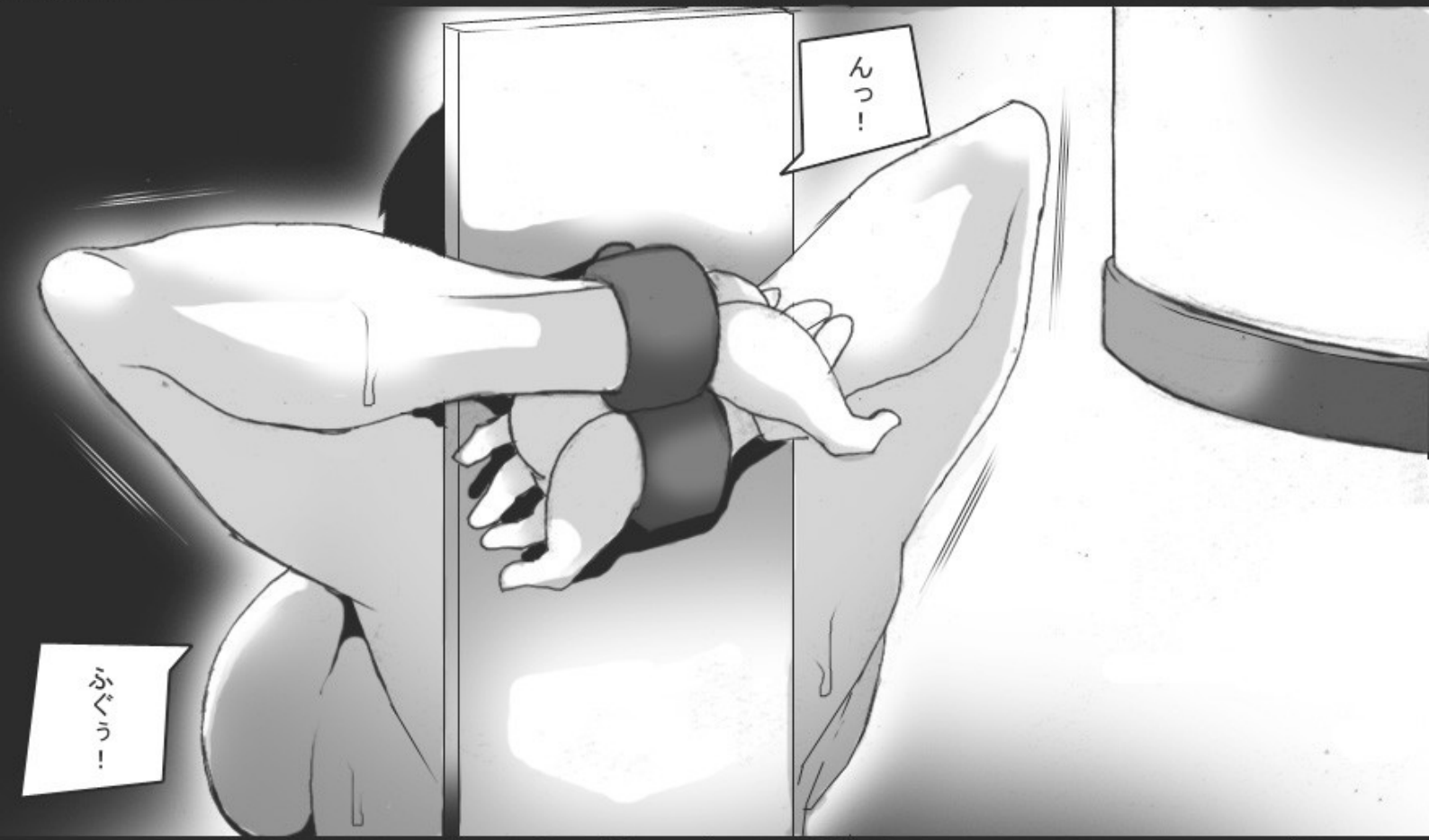
魔眼の虜





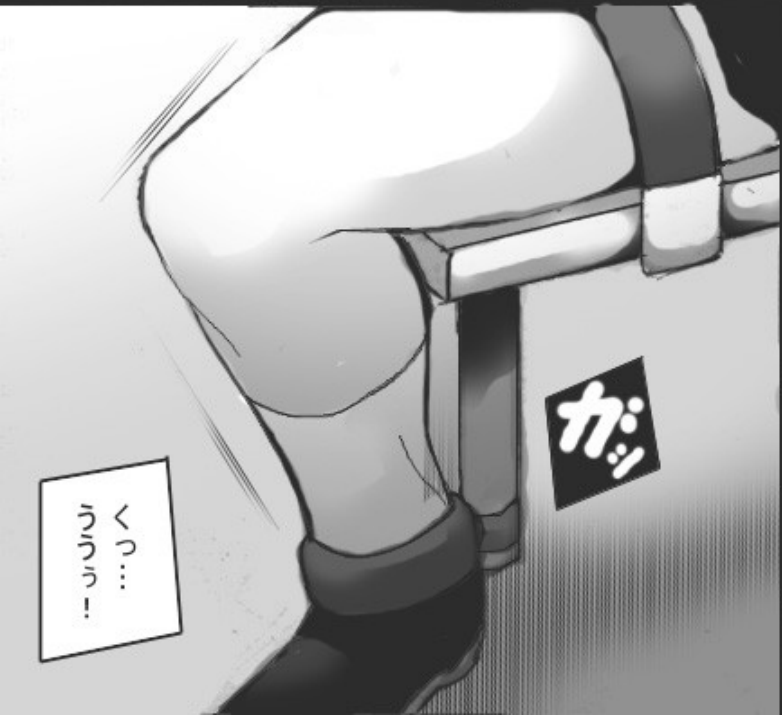
はあ

はあ



んっ!

びへっ!
!!



くっ...
くっ...
くっ...
!!

ガッ



んぐっ!

ガッ



ボクは小鳥遊 纏
(たかなし まとい)

ズ

ほ

ガ



…こんな恰好してるけど

フ

つい最近まで自分が
「こんな事」になるなんて
欠片ほども考えた事は無かった

フ

「彼女」と
出会うまでは

カッ

ズ



そんなに主張しなくても
今からたっぷり
翳ってあげるわよ…



プル

プル



フフ…
おっぱいプルプル
揺らしちゃって…

!!



おま

クスッ

彼女…
御堂 彩華
(みどう あやか)に

今日はどうやって
可愛がろうかしら





それは御堂 彩華が
ボクの通う高校へ
転校してきた日に遡り



ああ
なるほどね

私知ってるよ
原因は今日返ってくる
中間試験の結果でしょ？

当たり



ホ

?どうしたの纏?
元気だけが取り柄のアンタが
朝からポーツとしちゃって



そっいえば纏は
転校生見た？

転校生…？
今日だっけ？

今日だっけて…
昨日あなたの後ろに
転校生の机を
用意したじゃんか



流先生と？

それはともかく…
私達今朝偶然うちの担任と
転校生が話してるの見つけてさ



あれ!?
いつの間に
ボクの後ろに机が

…いつの間になって
あんたねえ…

よっぽど
試験の結果が
気になるのね



そうそう！
まるでお人形さんみたいな
顔立ちしてたよねあの子



そこで転校生の子の
顔見れたんだけど
すっごい綺麗な子でさ



昨日話した通り
今日からこのクラスに
編入する事になった
御堂 彩華さんだ



キーン


カー
コン



以前彼女は都内の
明和女学院に通学していたが
家庭の都合でうちに
編入学する事になったそうだ




同じ女子高とはいえ
勝手がだいぶ違うだろうから
彼女のサポートをしてやってほしい




御堂 彩華です
今日から皆さんと一緒に
この教室で学業に
励む事になりました

まだ至らない所もありますが
これから宜しくお願致します



御堂さんの席は
窓側の一番後ろに
空いてる席があるから
そこを使ってくれ

はい

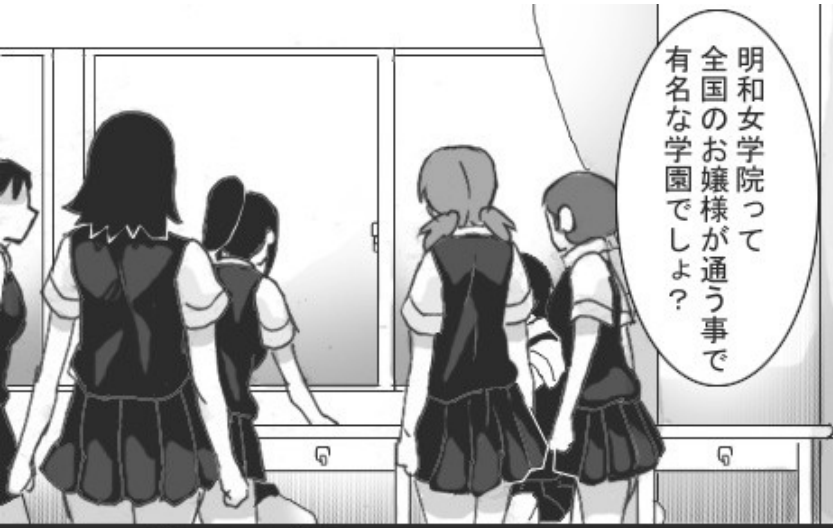


ボク小鳥遊 纏!
解らない事があったら
ボクに聞いてね!



いいえ
何でもないわ
ごめんなさい





明和女学院って
全国のお嬢様が通う事で
有名な学園でしょ？



そんな大それた家庭ではないわ
ただ引越す前の家から通いやすい高校が
明和だったってだけよ

ええ!?!
明和って入学時の敷居も
凄く高いイメージだよ?
そんな通いやすいからって
理由だけで入れるの!?!



御堂さんって
御令嬢とかなの？



ここから明和は
ちよつと遠すぎるしね



仕方ないわ
パパは寮暮らしに
否定的だったし



もったいないなあ
明和と比べたら
うちは普通の高校だし

放課後！


じゃあボク
これから部活だから
また明日ね！

試験の結果が
悪くなかった途端
元気になりやがって


へへーん♪
この試験さえ
乗り越えれば
あとは余裕だもんね！

御堂さんも
またね！


ええ
小鳥遊さん



「また」ね



ボクはその時
試験が終わって
部活に専念できることで
頭がいっぱいだった



部活が終わるまで
気付かなかったんだ…



バッグの中に入れておいたはずなのになあ



おっかしいなあ
どこにいったんだよ
ボクのスマホ

陸上部



あれっ？
机の中にも無い…



なんでだ!?
ボク今日は教室内でしか
スマホ出してないのに!



もうすぐ
日が暮れちゃうし
どうしょ…



折角試験を乗り越えたのに
スマホ無くした事母さんが知ったら
結局ボクぶっ飛ばされちゃうよ!

探し物は
これかしら？



あ！
ボクのスマホ…って
御堂さん!?

…って
なんでこんな時間に
まだ校舎に!?



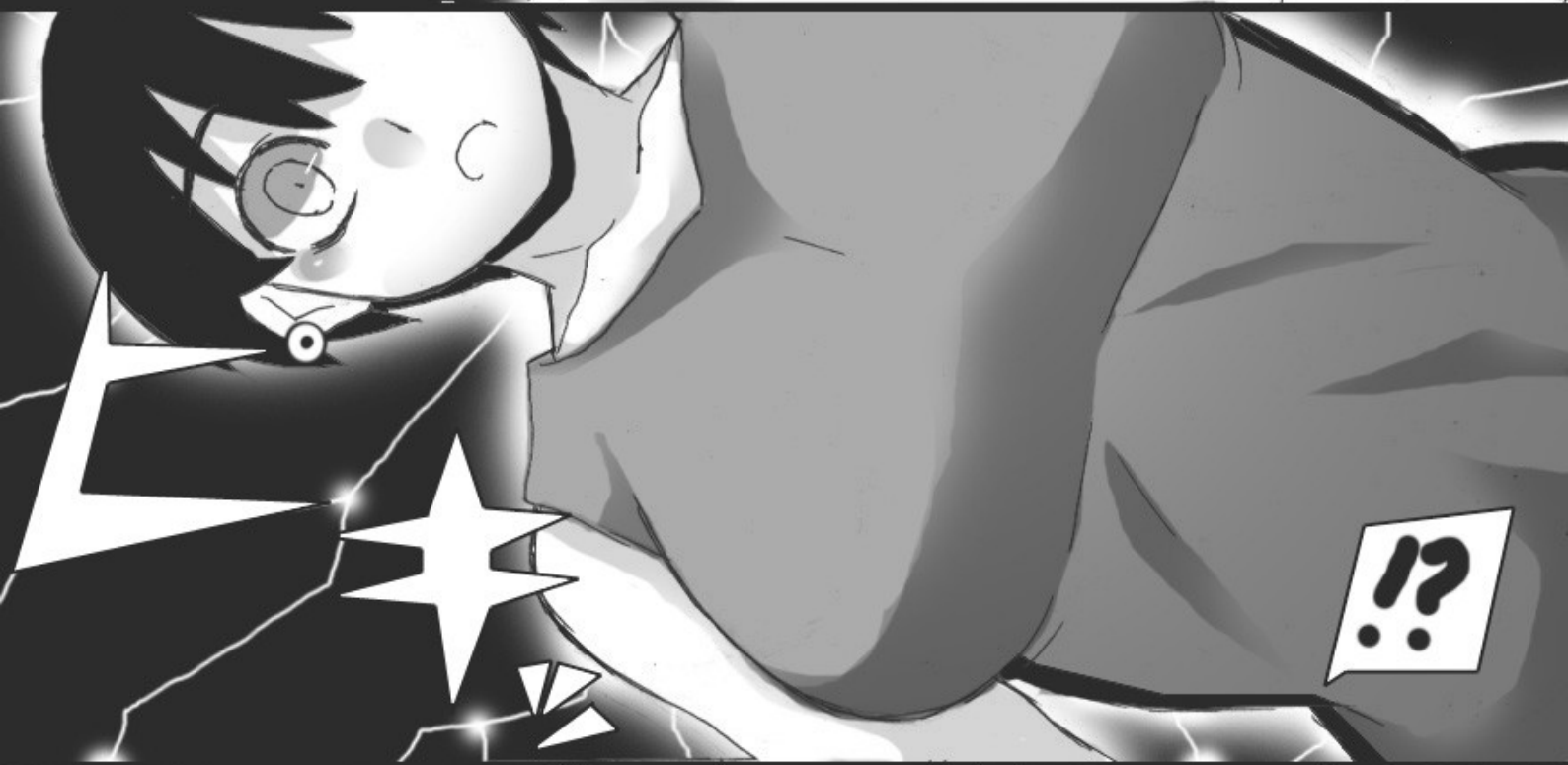
御堂さんが
ボクのスマホ
拾ってくれたの!?



待っていたのよ

あなたのスマホを
下校間に抜き取って
あなたがここに
取りに来るのをね

えっ？



!?

あなたと二人っきりに
なる為にね



か、身体が
動かせな…っ!?



えっ…!?

な、何!?



「纏」私ね
あなたを一目見て
興味が湧いたの

あっ

御堂さ…っ!?

あなたの内にある
「素質」に…



?!?

あなたの身体が
私の「新しい玩具」に
相応しいかどうか



だから
確認させてもらっわ

7

なんっ!?
身体が勝手に!?

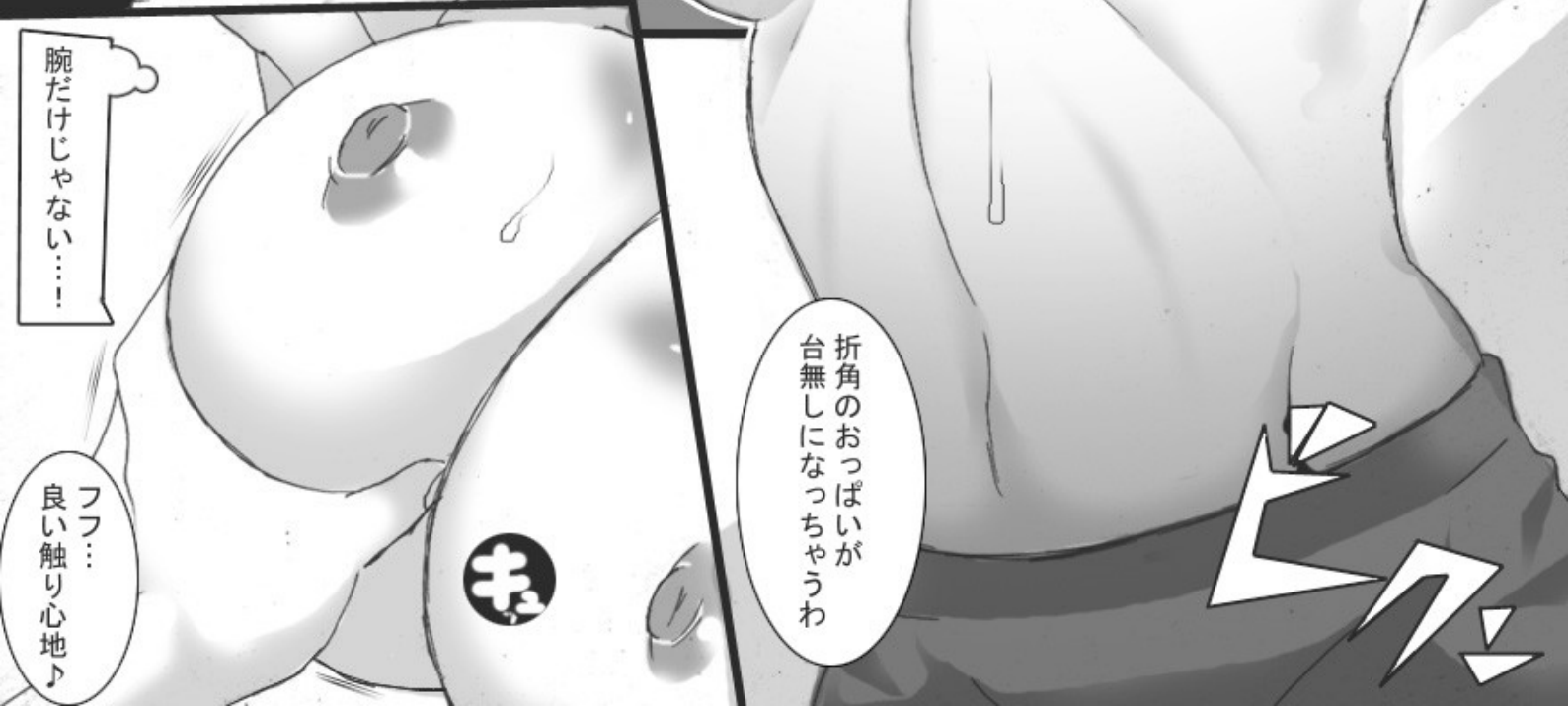
…想像はしてたけど
やっぱりスポーツブラなのね
纏は

まっ
待って!

駄目よ纏

ボ、ボクの腕なのに
駄目っ……!
止められなっ……!

スポーツブラは胸を押しつぶして
将来硬くしちゃうから
普通のブラのほうがいいわよ



身体全体が
ボクの云う事を
聞いてくれない！

あっ！
そんっ…ない！
さっ触らないで

御堂さんの手を振り払いたいののに
それどころか胸を突き出して
まるで御堂さんに触ってほしいみたいなの
この体勢を崩せない…！！

ム
ッ

ム
ッ

ッ
ッ

苛めがいのある
素敵なおっぱい♪

ギ
ュ

ッ
ッ

柔らかくて
でも張りもあって

ス
ッ

ッ
ッ

ますます
気に入ったわ

ギ
ュ

あうっ!?
そ、そこはあっ！

ク
スッ
ッ
そして良い反応



纏は感度が
高いみたいだから
可愛い嬌声が
聴けそうで嬉しいわ

ぶっぶっ
ぶっぶっ

ぶっぶっ
ぶっぶっ

ぶっぶっ
ぶっぶっ

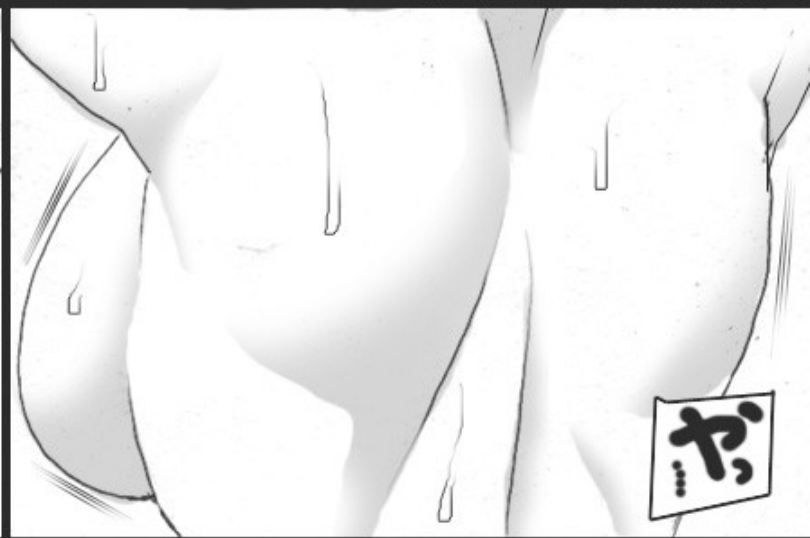
ぶっぶっ

私ね
「コレ」を苛めるのが
好きなの



ぶっ

ちゃんと
胸を張りなさい



ぶっ



まだ私が
弄っているんだから
じっとしているのよ纏

!?やっぱりそうだ!
訳は解らないけど
御堂さんがボクの身体を
操ってる...っ!



私の眼の力で
今纏の身体を
「支配」しているのよ

眼!
!?

私の「眼」よ

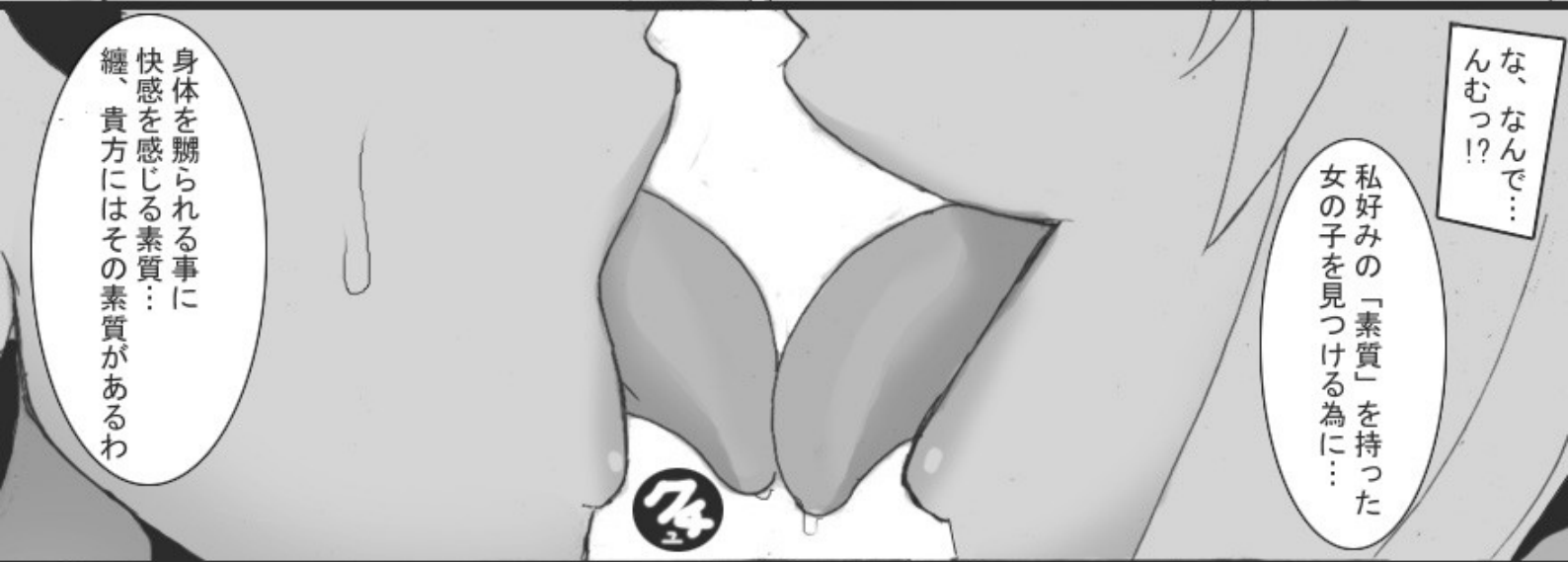


編入してきたというのも
引越してきたというのも
私の眼の力でこの学校に
入り込んだのよ

はっ!
!?

支配...!
!?

そうよ
ついでに言えば
私は「人間」ではないわ



身体を觸られる事に
快感を感じる素質:
纏、貴方にはその素質があるわ

な、なんで:
んむっ!
!?

私好みの「素質」を持った
女の子を見つける為に...



纏には
この乳首を觸られる
快感をたっぷり
教えてあげる

さっきも言った通り
私はコレを苛めるのが
好きだから

ズ
ッ

ズ
ッ

クスッ♪
それにしてもこの学校に来て
初日で素質を持った私好みの女の子に
出会うとは思わなかったわ

ほろ

んん

ぶ

ぶ

グッ

グッ

ま

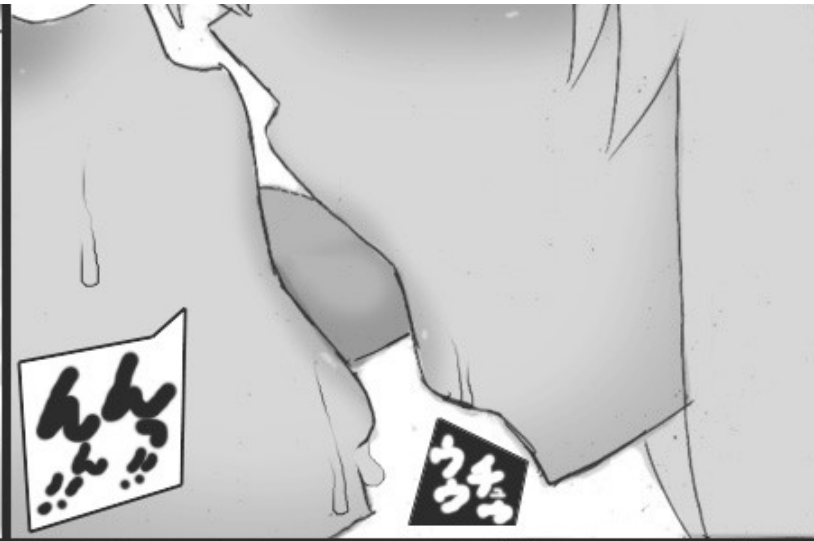
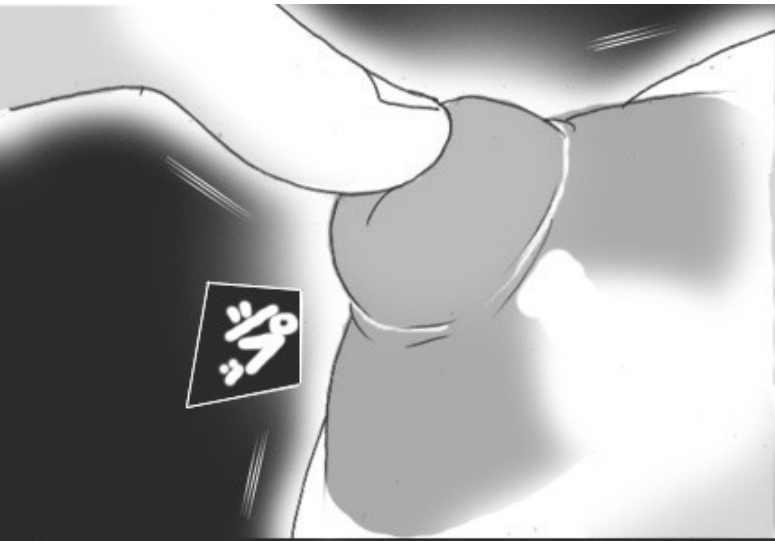
フフフ
これも運命なのかも
しれないわね

乳…首
掻き回さ…れっ



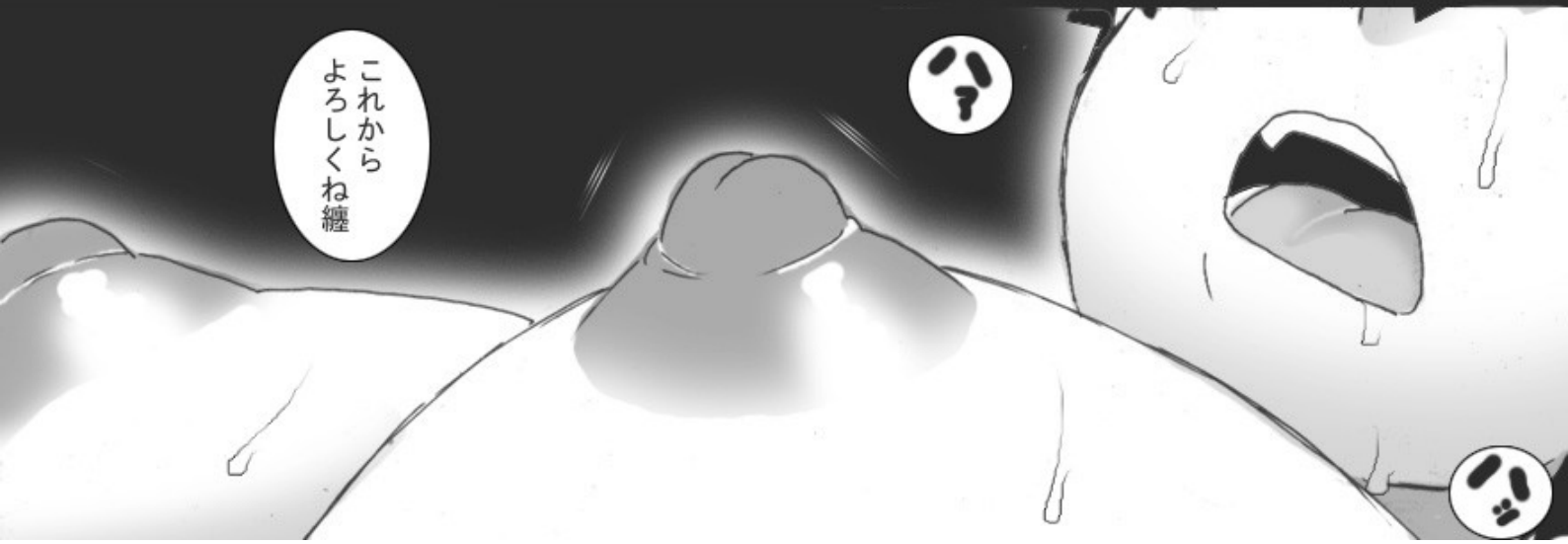
ほら…
ホラホラ…!






…でも今日はもう
日が暮れてしまっし
何も準備してないから
これくらいにしてあげる

フッフ…こんなに早く
新しい玩具が見つかるなんて
想定してなかったしね



これから
よろしくね纏



彼女は若年でありながらこれまで
数々のダンジョンを突破してきた
名うての冒険者


自分の腕に自信がついてきた彼女は
今回は熟練の冒険者でも拒むという
いわくつきのダンジョンに
挑戦することにした

右の空洞からは
左側とは打って変わって
少女の楽しそうな歌声が
聴こえた気がした

他に道は無いようだし
さて、左右どっちの
空洞の奥を調べるか：

そんな彼女の前に
二手に分かれた空洞

向かって左の空洞からは
女性の悲痛そうな声が
聞こえたような気がして



向かって左の空洞は
なんと空洞に擬態した
巨大な軟体モンスターの巣窟だった！

かすかに聞こえた女性の悲痛な声の正体は
このモンスターに捕われ
養分となる母乳を摂取するために
攫ってきて生きたまま苗床にされた
若い人間の女性の声だったのだ

このモンスターにとって
自分の領域に迷い込んできたこの冒険者は
活きのいい新しい餌である

捕われた彼女は他の捕われた女性たちと同様に
苗床として乳首から直接乳腺に触手を差し込まれ
母乳を啜られ続けられるのだった
残念！彼女の冒険はこれで終わってしまった！

向かって右側の空洞には
地底湖で遊ぶ少女の姿をした
インプ達が戯れていた！

少女でありながら
どこか妖艶な彼女達の戯れる姿に
冒険者はしばし目を奪われていたが
自分の身体に異変を感じた時には
既に手遅れだった

インプ達の歌声には
人間の思考と感覚を狂わせる効果があり
歌声に惑わされた冒険者は
無防備のまま彼女達の前に近づいてしまう

インプ達は冒険者を見るや
妖しい笑みを浮かべ彼女を裸にして
湖の中へと招き入れるのだった
冒険者の身体で戯れる為に…
残念！彼女の冒険はここで終わってしまった！













